

## 海外安全対策情報（2021年4月～6月）

### 1 社会・治安情勢

#### (1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により、2009年以降大幅に減少したものの、KP州及びバロチスタン州のアフガニスタンとの国境地域を中心に発生しており、引き続き警戒が必要である。テロ発生件数は前の期（2021年1月～3月期）から1件減少（40件→39件）し、死者は33人増加（44名→77名）、負傷者は66人増加（57人→123人）した。（当地シンクタンク「パキスタン平和研究所（PIPS）」調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラッドウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad・脅威の除去））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等治安機関は一定の成果を収めている。

イ 今期においては、即製爆破装置（IED）攻撃や銃撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設への攻撃を企図する勢力もある。

ウ 都市部や地方の別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件も多く確認された。治安当局による徹底した取締りが行われているが、依然としてイスラマバード首都圏を含めた都市部においてもテロの脅威は存在している。

#### (2) 各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向にあり、デモ参加者の行動がエスカレートし一部が暴徒化することもある。

○ 4月12日午後、パキスタン・ラバイク運動（TLP）指導者が当局に身柄を拘束されたことに反発し、同団体の支持者が全国各地で抗議デモを実行、警官隊との衝突で同日夜までに少なくとも2人が死亡、数人が負傷した。

身柄を拘束されたのは、アッラーマ・サード・フセイン・リズビーTLP代表（注：昨2020年11月に新型コロナウイルス感染症で死亡したカーディム・フセイン・リズビーの息子）。拘束現場はラホール市内のワハダット通りで、知人の葬儀に参列するため車両で移動中だった。リズビー代表は11日、昨年フランスのマクロン大統領が預言者ムハンマドの風刺画を表現の自由として不問に付したことに抗議し、駐パ仏大使の本国送還とパキスタン全土におけるフランス製品のボイコットを改めて要求するとのビデオ・メッセージを発して行動を呼び掛けていた。

昨年11月16日、パキスタン政府は事態の收拾を図るため、TLPと

の間で駐パ仏大使の本国送還を含む様々な事項について3か月検討することに合意した。期限となる本年2月16日直前、政府は合意の実施が不可能だとして更に時間の猶予をTLP側に求め、TLP側は最終期限を4月20日とするとし、自分達の要求が受け入れられない場合は抗議行動に出ることを宣言していた。

リズビー代表の拘束を受け、TLPが全土で抗議活動呼び掛けたところ、激昂した支持者がラホール、グジュランワラー、イスラマバード、ペシャーワル、カラチ等の路上に繰り出し、一部では座り込み抗議を始めため、交通等市民生活に重大な影響が及んだ。パンジャブ州では高速道路の一部がTLP支持者によって封鎖され、鉄道のダイヤも終日乱れた。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

### (1) 邦人被害事案

なし

### (2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が頻発している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

### (3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバード首都圏は富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に加担する事件が時折発生している。また、家主の不在間に家屋に侵入し、金品を窃取する事件が発生しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

### (4) 名誉殺人

当国では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される、所謂名誉殺人が跡を絶たない。今なお保守的なパキスタン社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させるのが都市部でさえ一般的であり、それに起因するトラブルで結婚相手やその家族・親族等からのDV被害も深刻な問題となっている。

### (5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出

ないことが多く、被害実態は正確に把握できない。被害者の年齢及び性別は多様で特に子供をターゲットにした極めて悪質な犯行も多く発生しており、誰もが被害者になる可能性がある点に注意する必要がある。

(6) サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局（F I A）サイバー犯罪部門は、SNSを通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。F I Aでは、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

(7) プロの物乞い

イスラマバード首都圏では、マフィアの支配下にある物乞いが問題となっており、イスラマバード警察では摘発に力を入れている。道路上での物乞いを装って、拳銃強盗を働くケースも報告されている。物乞いに窓を開けて対応する等、不注意な行動は犯罪者に隙を与えるため、慎む必要がある。

(8) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

3 2020年7月から2021年6月までのテロ発生状況

2020年

7月	16件、死者	17名、負傷者	45名
8月	12件、死者	14名、負傷者	86名
9月	10件、死者	11名、負傷者	12名
10月	16件、死者	40名、負傷者	124名
11月	10件、死者	16名、負傷者	7名
12月	15件、死者	18名、負傷者	90名

2021年

1月	13件、死者	21名、負傷者	21名
2月	16件、死者	22名、負傷者	18名
3月	11件、死者	14名、負傷者	5名
4月	11件、死者	14名、負傷者	39名
5月	15件、死者	33名、負傷者	30名
6月	13件、死者	30名、負傷者	31名

(出典：パキスタン平和研究所)

4 安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

\*以下、パキスタンを「パ」と表示

- 4月4日、高速道路のスワビ料金所付近で、正体不明の武装勢力が車両を銃撃し、乗車していた4人全員が死亡した。死亡したのは、スワート反テロ裁判

所判事と同人の妻、娘、孫（3歳）。運転手は重傷。カーン首相は本件を強く非難し、犯人を逮捕し、法の裁きを受けさせるとツイートした。

- 4月12日、治安部隊は、K P州南ワジリスタン部族郡 Lodha において、インテリジェンス情報に基づく作戦を実行し、ピール（別名アサド）というパキスタン・タリバーン運動（T T P）テロリストを殺害した。同人は、2006年からT T Pで活動し、治安部隊に対するテロに関与していたとのこと。
- 4月13日、テロ対策局（C T D）は、バロチスタン州ボーラーンでハザラ人殺害を含む多くのテロに関与したとされるテロリスト4人を殺害した
- バロチスタン州C T D報道官は、4月12日から13日にかけて、ボーラーンの山岳地帯においてインテリジェンス情報に基づく作戦を行い、ラシュカレ・ジャングヴィー（L e J）やI Sの拠点を破壊したと発表した。
- 4月18日、非合法団体T L Pの活動家多数がラホール市内の交差点を占拠し、レンジャー部隊及び警官隊と激しく衝突した。同市内の高架鉄道（オレンジライン）と始め交通が遮断されるなど、終日市民生活に大きな影響が出た。3人が死亡し、警察官を中心に負傷者は数百人に上った。T L P活動家達は警察署を襲撃し、副警視を含む警察官5人をT L P本部へ拉致した。
- 4月20日、イスラマバードF - 1 1地区において、何者かがベテラン・ジャーナリストのアブサル・アーラムに発砲した。同氏は負傷したものの、命に別状はない。同氏は「パキスタン電子メディア規制庁（P E M R A）」の元長官。犯行主体及び動機については不明。
- 4月21日、バロチスタン州クエッタのセレナホテル駐車場で大きな爆発が発生した。22日午前1時時点で死者4人、負傷者12人。同月22日午前零時過ぎにT T P報道官名でウルドゥー語の犯行声明が発出された。  
爆発のあった当日は農融駐パ中国大使がクエッタを訪問していたが、事件発生時に大使一行はこのホテルにいなかった。
- 5月2日夜、バロチスタン州ケッチュ郡で1人が銃撃され死亡した。
- 5月3日、バロチスタン州アーワーラーンの沿道で起きた爆発により、部族警察（レヴィー）2人が死亡し、2人が負傷。部族警察によれば、爆発は遠隔操作型I E Dによるもの。同日深夜時点で犯人は捕まっていない。
- 5月3日、バロチスタン州パンジグールにおいて、何者かが車に対し発砲し、乗車していた2人が死亡した。死亡した1人のカーン・ジャーンは、バローチ語詩人であるファザル・シェールの兄。同氏は、2017年にも誘拐され、昨年解放されていた。
- 5月5日、「パ」とアフガニスタン国境沿いのバロチスタン州ジョーブ (Zhub) のマンザカイ (Manzakai) ・セクターでフェンス設置作業中の辺境警備隊 (F C) は、アフガニスタン側からテロリストによる待ち伏せ攻撃を受けた。  
この攻撃に対して、F Cは迅速に対応したが、4人のF C隊員が殉職し、6人が負傷した。
- 5月6日、バロチスタン州ホーシャーブのシーシャン地域 (the Shishan area

of Hoshab) 近くで治安部隊の車列がテロリストによって待ち伏せ攻撃を受けた。3人のF C兵士が負傷した。

- 5月6日、TTPは、5日と6日にKP州及びバロチスタン州でそれぞれ発生した軍に対する襲撃を認めた。ジョーブ、KP州バジョール部族郡等では合わせて9人の警備員が死亡、8人が負傷した。
- 5月7日夜、アフガニスタン側から越境して来たテロリストらがKP州バジョール部族郡の駐屯地に対して発砲し、兵士1人が負傷。
- 5月8日深夜、KP州ラッキー・マルワトのDadiwala 地区で2台のバイクが、インダス・ハイウェイの検問所を襲撃し、銃撃戦の末、警察官がテロリスト2人を殺害したが、警察官1人が殉職した。
- 5月8日夕方、ポーラーンのMargar で攻撃を受け、3人のF C隊員が死亡し、1人が負傷。F C隊員がすぐさま反撃を行ったが、実行犯は逃走した。
- 5月17日夜、数十名の暴徒が、預言者ムハンマドに対する冒瀆的な言動で捕まった男性を殺害しようとして、イスラマバード郊外のゴルラ警察署を襲撃。
- 5月22日、KP州バジャール部族群のBarang 地区で遠隔操作された爆発物が爆発し、1人が死亡したと警察が発表した。犯行声明は出していない。
- 5月22日、KP州クラム部族郡のSadda で暴徒が法執行機関を攻撃した。F C兵士が出動し、暴徒の攻撃に反撃したところ、8人が負傷した。
- 5月26日、タリバーンは、アフガニスタン近隣諸国にアメリカへの軍事基地の提供を許可しないよう警告した。タリバーンは、もし米軍基地が近隣諸国に置かれることになった場合、歴史的誤り (historic mistake) で不名誉であると表現している。
- 5月26日早朝、クエッタ郊外のKilli Aghbarg で、インテリジェンス情報に基づく作戦を行い、TTPの司令官を含む4人が死亡した。

TTPの司令官であったRiaz Thekedar は、これまで治安部隊へのテロ、2016年のクエッタ市民病院 (Civil Hospital Quetta) での攻撃、Pishinでのバイク爆弾攻撃、銀行強盗や、Pashtunkhwa Milli Awami Party のリーダーSardar Mustafa Tareen の息子誘拐に関わっていた。

武装勢力の潜伏場所から大量の武器と銃弾が押収されたと述べた。

- 5月31日、バロチスタン州において2件のテロがあり、兵士4人が殉職し、8人が負傷した。軍統合広報局 (ISPR) の発表によると、少なくとも4人のテロリストが殺害され、8人が負傷した。

1件目は、クエッタのPir Ismail Ziarat 近くにあるF Cポストがテロリストの標的となり、銃撃戦を展開した。ISPRによると、テロリスト4～5人が死亡し、7～8人が負傷した。銃撃戦の間、4人の勇敢なF C兵士が殉職し、6人の兵士が負傷した。

2件目は、バロチスタン州トゥルバット (Turbat) において、F Cの車両がIEDによる攻撃を受け、2人の兵士が負傷した。

- 6月2日、南ワジリスタン Kaniguram の軍検問所近くで、IEDが爆発し、

兵士1人が死亡した。

- 6月3日深夜、イスラマバードの Shams Colony で、バイクで巡回を行っていた警察官2名が死亡した。

- 6月5日朝、バロチスタン州クズダール (Khuzdar) 地域の Wadh 町で、ヒンドゥー商人宛ての脅迫のパンフレットが見つかった。女性客を店内に入れないよう忠告し、従わなければ悲惨な結末を迎えると書かれたパンフレットは、メインマーケットのヒンドゥー商人の店外やクエッターカラチの国道などで発見された。

- パンジャーブ警察CTDは、警察官殺害をはじめとしたテロ行為が最近相次いでいることから、州全土で掃討作戦を行った。その結果、特定されたテロ容疑者7人と特定されていないテロ容疑者65名を逮捕した。

6月5日、I S I Sの Muhammad Shahzad Ali が、ナロワール (Narowal) にて逮捕された。同人は、5月30, 31日に起きたシーア派の行進への爆破の実行者である。CTDは、2, 100グラムの爆薬、起爆剤などを押収した。

シパーヘ・サハーバ・パキスタン (SSP) の Artaza Maheed は、バツカル (Bhakkar) で組織のパンフレット及びビラを配っていたところ逮捕された。

CTDは、54のビラと32のパンフレット、現金を押収した。

- 6月9日、KP州マルダーンの Rustam で、ポリオワクチン接種キャンペーンの警備からバイクで戻っている途中の警察官2人が、何者かに射殺された。犯人は、事件後に逃走した。

- 6月14日、バロチスタン州のマーゲトクエッタ (Marghet-Quetta) 道路において、IEDが爆発し、FC4人が死亡した。

ISP) によると、テロリストらがFC兵士を狙ってIEDを使用したとみられる。

- 6月17日、ポーラーン地区の Marwar 炭鉱地域で、バローチ解放軍 (BLA) のテロ容疑者4人は、CTDとの銃撃戦で殺害された。

CTDの報道官は、BLAのメンバーが Marwar でテロ行為を行う予定との情報を入手し、掃討作戦を行ったと発表。4人の殺害には成功したが、6～8人はその場から逃走した。

また、捜索活動の結果、テロ容疑者らの潜伏場所から大量の武器や銃弾、固形食料や救急箱、薬品などが発見された。

- 6月17日、テロリストは、バロチスタン州のトゥルバット空港付近で軍隊を狙い小型武器で攻撃した。その結果、兵士1人が死亡した。

- 6月19日、KP州北ワジリスタン部族郡の Sinwam 地域で、銃撃戦の末、TTPのテロリスト2人及び軍兵士1人が死亡した。ISPによると、殺害されたテロリストらは周辺地域で治安部隊へのテロ行為に関わっていた。

- パンジャーブ警察CTDの報道官は、テロ容疑者3人を逮捕したと発表した。

さらに、ここ1週間で49の掃討作戦をパンジャーブ州各地で行い、50人を逮捕したと発言した。警察官の殺害が全国各地で増加していることから、引

き続き掃討作戦を行うと述べた。

- 6月22日、K P州北ワジリスタンの Shiwa にて、地域の校長が武装した人間に殺害された。また、同日同地域にて、警察官2人が家族間の争いが原因で殺害された
- 6月23日、K P州 Bannu の Tochi Bridge にて、Janikhel 部族が抗議運動を行ったところ、警察と衝突した。その結果、1人が死亡し、警察官10人を含む20人が負傷した。
- 6月23日、C T Dは、K P州 Buner の Kangar Gali 地域にて、T T P 構成員3人を殺害したと発表した。C T Dによると、テロリストらがK P州スワートの Kangar Gali にいるとの情報を受けて、掃討作戦を行った。  
殺害されたT T Pの構成員らは、P M L - Nの政治家や治安部隊への攻撃計画に関わっていた。警察はテロリストらから重装備の武器を押収した。
- 6月23日、パンジャーブ州ラホール市ジョーハル・タウンで爆発が起き、3人が死亡、24人が負傷した（※在留邦人に被害なし）。現場は非合法団体ジャマートウダーワ（J u D）のハーフィズ・サイド代表住宅付近であった。犯行声明は出ていない。
- 6月23日深夜、K P州北ワジリスタンのアフガン国境付近にある Khaderkhel 地域にて武装集団の衝突により3人が死亡し、2人が負傷した。
- 6月24日夕方、バロチスタン州シッピー郡サンガーン (Sangan) 地区にて、テロリストらがパトロール中のF C隊員を攻撃し、5人が死亡した。  
I S P Rは、外国の情報機関による支援を受けた攻撃が、バロチスタンの平和と繁栄を脅かしていると発言した。
- 6月26日、バロチスタン州KechのMand地域で、身元不明の人間が銃撃し、F C隊員1人が死亡、2人が負傷した。F C隊員らは、「パ」ーイラン間の国境警備に従事していた。

## 5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。今年、ラホール市において、外国籍の旅行者が誘拐される事件が発生した。

誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、一般犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

## 6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないもの

の、2017年5月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生している。

2020年12月15日、カラチ市南地区において中国人の車両に遠隔装置爆弾が設置されたが不発だった。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した2人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。

本年4月、クエッタにおいて駐パ中国大使が滞在していたホテルに対するテロが発生した。

活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、先ずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)